月刊『測量』別冊　いまさら聞けない地形判読

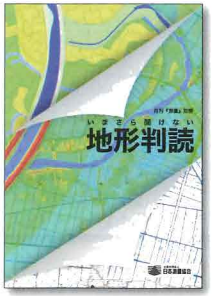
「いまさら聞けない地形判読」編集小委員会 編

この月刊『測量』に２年間24回にわたって連載された「いまさら聞けない地形判読」が，１冊になった。

ここでいう「地形」とは，分類され命名された地形種やその集合体として捉えられるもので，等高線やDEMなどで表現されるだけのものではない。それを「判読」するということは，対象となる場所の地形がどのような地形種でどのように構成されているかを把握し，それを形成させてきた作用と，その場所のもとの物質，そして場の条件と歴史的な時代背景を考え，どのようにしてその場の地形が形成されてきたか，現在の地形はどのような物質でできているか，そして今後どのような地形変化が進行していくか，ということを判定するということである。けっこう「深い」のである。

地形判読が自然災害の危険度を知ることなどで重要だということは，近年よく知られるようになってきた。それに伴い，信頼できる地形判読技術者が求められており，全国地質調査業協会連合会は，2012年度から応用地形判読士という資格を認定している。地形判読は測量の発展分野という側面があり，測量技術者への期待も大きい。

本書では，経験豊富な中堅技術者が実務に役立つように地形判読を解説している。地形の3D表現などの新技術も積極的に取り入れられている。測量技術者の中には，地形判読は多少知っているが体系的に理解しているわけではない，という人も多いだろう。そういう「いまさら聞けない」人だけでなく，「新しく取り組もう」という人にもお勧めである。　（熊木 洋太）



日本測量協会　発行
A4判　96ページ
本体1,500円+税

問い合わせ　TEL. 03-5684-3354